

## 令和4年度 上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会を開催しました



令和4年7月21日(木)上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会(以下、協議会という。)を開催し、令和3年度 of 取組報告と令和4年度 of 取組方針について、委員の皆さんと協議しました。

各職能団体の立場から、4つの部会に対する意見交換が活発に行われ、方向性を共有するとともに、それぞれの専門職の立場でできることや今後の取組について確認しました。

### ◆専門部会における令和3年度 of 取組内容と令和4年度 of 取組方針についての意見等

- 病院で働くスタッフも、患者を点で捉えず、退院後の地域での生活にまで思いをはせて接することが大切だと再認識した。
- 対人援助については同じ職場でも職種によって捉え方が違うということがあり、在宅医療と介護に関わるどの職種、病院・在宅にかかわらず共通の基盤があるはずだと思い、研修を企画してきた。この共通の基盤を誰もが認識することで、同じ目線で同じ方向を向いた援助が可能になると思う。
- 昨年度の高田地区ケアマネジャー研修会に参加し、在宅側の声を直接聞くことができ、とても有意義だったので、病棟看護師が、患者が退院した後の地域を知るという機会を今後も作ってもらいたい。

- 入退院時連携推進部会の連携窓口一覧については、薬剤師会でも活用してよいか部会で検討いただきたい。
- 地域連携連絡票について活用を広めたことで、ケアマネジャーが担当した時に、当たり前で作成するようになり、そのためサービス利用時の申し込みや入院時の連携が取りやすくなった。

### ◆医療・介護連携の推進に向けた今後の取組についての意見等

- 歯科医師会と一緒に講演する機会があり、オールフレイルについて、自分が訪問している患者へアンケート調査したところ、意外と口腔のことに無頓着な高齢者が多いように感じた。薬により、口渇が生じたり嚥下が悪くなる場合もあるので、歯科医師会と一緒に研修会を行っていきたい。
- 歯科医師会としても薬剤師会と一緒に、高齢者の口腔に対する意識を高めたいと考えているが、ケアマネジャーの中には口腔に関する意識が低い人もいる。在宅歯科医療連携室に依頼が来るのは、既に嚥めない等の症状が出てきた状態であるため、少し前の段階で連絡をもらえれば、オールフレイルに関する助言等が可能なことから、連携できればと考えている。
- 施設における医療について、現在施設で亡くられる方も多く、そのような中で嘱託医に駆けつけてもらうというのは大変で限界がある。病院・医師会からの協力など、へき地医療と同じように施設の医療についても、何かしらの工夫を考える時期にきていると思う。
- 本協議会に参加し随分経つが、骨格・肉づけが出来てきたと感じており、病院は地域と連携していかないと、成り立たないと思う。また、最期の看取りは、高齢化や家族形態の変化等

で、施設やケアマネジャーの判断は大変になっている。そのため、ACP(アドバンスケアプランニング:人生会議)と同時に、看取りについての周知・啓発も必要だと感じる。

○介護と医療の連携をさらに進めていく上で、病院の、特に急性期病院の看護師が地域を肌で感じる事が大事だと思う。急性期は患者の平均在院日数が短く、そのような中で、患者が退院後にどのような生活をしているのか、地域の医療・介護でどう支えているのか等は、知識でわかっているても実態は見えにくい。実態が分かることで、日々の看護に活かされたり、ケアマネジャーとの連携に役立つと思うので、そのような場を企画していただくとありがたい。

○委員任期の3年に1回、総仕上げという事で各職能がこんな連携をしたら上手くいった等の具体的な成功事例の発表会を開き、医療・介護の連携についてアピールする場を企画していいのではないかな。

○施設では、看取り期に入ると薬を飲めない人が多く、止めてよいか指示がもらえると助かる。薬剤師会と歯科医師会でタイアップしているとの話があったが、同じように職能ごとでタイアップするような研修会等があると、情報だけでなく繋がりも広がると思う。

○訪問看護では在宅での看取りや、病院退院直後の医療ニーズが高い人への支援が多い。高齢化の中、今後訪問診療や訪問看護の必要性が高まると言われており、訪問看護は在宅と医療をつなぐ架け橋だと考えている。患者はいずれ在宅に戻るため病棟看護師も地域の視点をもつことが大切との話があり、より連携を深められたらと思っている。

先日、歯科医師との訪問で嚥下や栄養状態をみる事があったが、本当に様々な職種の連携が必要と感じた。主治医はもちろん歯科医師、栄養士、訪問看護、訪問介護、ケアマネジャーなど全体で見えていくべきだと思う。ぜひオールフレイルについて啓発を広めてほしい。

○理学療法士会は、この在宅医療・介護連携でなじまないかもしれないが、リハビリテーションを担当する団体で、介護予防および自立支援を目的とした地域ケア個別会議に歯科衛生士・栄養士・薬剤師等と一緒に参加している。個の事例を通して他団体との連携推進になっていると思っている。



協議会や部会の活動そのものが多職種連携のプロセスになっています。3年目になり、部会内や専門職間の関係づくりも進んでいると実感します。今後は、引き続き、部会毎の取組を進め、成果につなげていきます。